



脱炭素シナリオと再生可能エネルギー導入目標

脱炭素シナリオ

目標達成に向けて、「長野県ゼロカーボン戦略ロードマップ(2023年11月)」をベースに脱炭素シナリオを作成し、活動量やエネルギー消費原単位を推計しました。

【産業・業務部門】 年3%の省エネを継続的に実施。

再エネ利用率を2030年に20%、2050年に100%。

【家庭部門】 新築ZEH率を2050年度以降早期に100%、将来的には全体でゼロエネ。

住宅屋根に太陽光パネルを2030年に3割、2050年に約5割設置。

【運輸部門】 2030年に自動車の10%をEVへ移行、2050年に全ての車をEV・FCVへ移行。

再生可能エネルギー導入目標

富士見町の再生可能エネルギー電気のポテンシャルは、約99%が太陽光発電であるため、**太陽光発電を中心とした再エネ導入を推進**していきます。ゼロカーボン達成に向けて必要な設備容量は累計約11万kW(2025年度に2021年度比で141%増)となります。県の導入目標をベースに**自然環境や景観等に配慮**したうえで、建物系・土地系それぞれの導入を目指します。

再エネ導入目標量

	2021年度(実績)	2030年度	2040年度	2050年度
電気使用量 (kWh)	176,549	158,077,275	156,055,197	148,421,680
累計設備容量 (kW)	45,126	75,976	86,830	108,537
設備容量の増加率 (2021年度比)	—	68%	92%	141%
不足の再エネ電力量 (kWh)	114,783,258	54,085,864	37,207,869	0

次回(広報11月号)は、「温室効果ガス排出削減に関する取り組み・施策の立案」について紹介します。